

## 活動報告

龍谷大学先端理工学部・講師 里山学研究センター・副センター長  
中川 晃成

オールドオオツの歴史的発展と関わりの深い園城寺に焦点を当て、景観情報学の手法により、その近世と近代前期における景観変遷を通観する研究を行った。園城寺境内の院房の近世全期3世紀弱にわたる変遷を、名称継承も含め網羅的に明らかにした。第九連隊の園城寺寺地内への設置と滋賀県の県都が大津と定まったこととの関連が示唆された。

2021年8月に策定された淀川水系河川整備計画（変更）にかかわり設置された各種の委員会における審議過程を詳細に検討することで、そこでの議論が水理についての合理的な理解にもとづいておらず、不適切な結論を誘導している点を具体的に多数指摘した。

このほか、琵琶湖・淀川水系の過去の氾濫事例において、すでに忘却されていたり、時に誤って理解されている諸点を明らかにするための研究が進行中である。また、近江国伊香郡の地誌を景観情報学の手法により取り扱うことを検討している。今後、科研費の採択状況によっては赤野井湾とその流入河川流域についても同様の手法での研究対象となる。